

IUCN 評価書による境界線に関する指摘事項

1. 推薦された状態では、いずれのクライテリアについても、完全性の要件を満たさない。

- 世界的重要性を伝える主要な特徴やプロセスを極めて良く示すために、十分な規模を有するが、生物多様性保全の観点から、推薦資産及び緩衝地帯の境界の一部は不適切と考えられる。
- 修正すれば、(x)については要件を満たす可能性がある。(ix)については難しい。
 - ① 北部訓練場 (NTA) 返還地内の生物多様性上、重要な地域を含む必要がある
 - 沖縄島では、地図上では推薦地域は極めて分断されているように見えるが、実際には全体的景観や生息地の接続性は良好である。
 - NTA 返還地については、現地視察しておらず十分な評価ができないこと、これらの編入が完全性を評価する上で、大規模な追加であるため評価ミッションが必要。
 - ② 西表島北部／北西部の重要な河川流域をより多く包含する小規模な拡張も必要かもしれない。
 - ③ 小規模構成要素が多く、いくつかはシリアル資産に加える価値がほとんど無い。
 - OUV の考慮上不適切な、いくつかの構成要素を除外する。

2. 推薦資産の構成は、シリアル推薦に必要な以下の 2 点に問題がある。

- (1) 24 の構成要素それぞれに対し、個々の構成要素の貢献度を評価できない。
 - 独特の価値や脅威、保護措置、管理体制等の記述は 4 島に対してのみで、個々の要素に対する記述が無い。
 - (2) 4 島の OUV への貢献は明白だが、24 の構成要素すべてがそうではない。
 - 沖縄島北部、奄美大島、西表島のいくつかの小規模構成要素は、価値や完全性への貢献が無い／極めて小さい。厳重な保護ゾーンに属するだけで推薦地域に含まれている。
 - 必要に応じて、近くの大きな要素に連結するか、推薦地域から除外することが望ましく、シリアル資産全体の管理しやすさや一貫性も向上する。
- 現在の推薦地の構成は、小規模に分断・分割された構成要素の生態学的持続可能性について、完全性に関する重大な疑問を生じる。